ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-1(橋梁左岸側)	調査位置				北　緯	36 ° 36 ’ 57.1200 ”
発 注 機 関	栃木県鹿沼土木事務所　整備部			調査期間	2010-02-24 ～ 2010-02-26	東　経	139 ° 32 ’ 48.8100 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	687.31 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 15.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	4.01 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
	686.66	0.65	0.65		礫混じりシルト (M-G)	暗褐			崖錐堆積物 礫は径φ10～40mm程度の亜角礫主体混入 含水比中位　粘性下位 0.20m以深、高含水比(地下水位下)		0.20
1	686.16	0.50	1.15		砂礫 (GS)	灰			現河成礫層 径φ10～40mmの亜円・亜角礫主体 マトリックス(礫間充填物)は中～粗砂主体 0.65m、コア長400mmの巨石点在 孔壁の自立性低い		
2					頁岩 (Sh)	黒			基盤岩 コア形状は主に短柱状 所々片状を呈す 風化変質は少なく比較的新鮮 節理は10～30cm間隔 節理面はやや暗褐色を呈す 1.15～1.45m間,2.35～2.55m間、礫状を呈す RQD25～45%(Max200mm) コア採取率90～100% 岩級区分CL～CHと判定		
3											
4	683.30	2.86	4.01								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	50／5			50／5	>50
1.20					
2.00	50／3			50／3	>50
2.03					
3.00	50／2			50／2	>50
3.02					
4.00	50／1			50／1	>50
4.01					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						02/25
						02/26